

第2回 こうぶく押切っ子協議会 議事録

- ◇授業参観 10:00～10:25
- ◇協議会 10:30～12:00
- ◇給食の試食 12:00～12:20
- ◇自作弁当（6年生）の見学

日時：令和5年12月 4日（月）
10:00～12:20
場所：押切小学校 集会室

◇学校運営状況の中間報告（渡邊 岳 校長）

- ・学校教育目標に、「いのち輝き かしく やさしく たくましい 子どもの育成」を掲げ、来年に迫った創立150周年を見据え、建学の心に立ち返り新たな押切小をつくるというサブテーマで取り組んでいる。
- ・150周年については、来年の11月16日に創立記念事業を予定している。実行委員会で記念誌の発行に向けた執筆作業等が始まっていて、記念式典や祝賀会についても計画中である。記念事業を通して、地域の皆様とつながるよい機会、また、同窓生の方々に押切小の学びについて理解していただく機会と捉えていただけるように進めている。
- ・めざす学校像である、「今日が楽しく、また明日来たくなる学校」ニコニコ・ワクワク・イキイキを合い言葉に、子どもたちと、先生方と学校運営を進めている。
- ・今年度の重点的取り組みについて

①「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」について、授業が楽しいことは「学校が楽しい」につながる要素であると考え、授業づくりをしっかりと行っていこうと話し合っている。本校の児童は、真面目で素直であり、「自分をだす」というよりはどちらかといえば「おとなしい」。学校生活でもとても安定している。もめ事やいじめなども少ない。一方、積極性に欠ける面や新しいものを創る意欲に欠けるなどの課題がある。公開研究会を通じ、互いに寄り添い、学びを深める子どもをめざして授業づくりに取り組んできた。

公開研究会では、たくさんの先生方の前で自分たちの授業を見ていただいたことはよかった。また、授業づくりの面では、これまで、先生が前で何かを教えるという授業（一斉授業）から、ペア学習（隣同士）やグループ学習へと変わった。受け身の授業から子どもの自主性、共同性を大切にしたい授業。また、わからないことをそのままにしないで友だちに聞ける授業へと変わった。

②「教育相談の充実」と「縦割り活動の絆づくり、学級づくり」の重点。

学校は、地域や保護者の方々と、ともにすすめていくことが大事であり、コロナ禍で保護者や地域の方々に学校に招くことができなかつた。収まりつつある今、関係をより大切にしたいと考えている。教育相談は年間2回（子ども対象）、さらに、保護者の希望面談を実施している。縦割り班の活動は12班を編制して行っている。清掃活動や押切小フェスティバルなどの行事を通じて、子どもたちが関わる楽しさを感じることができるようになっている。さらに、今年度より学習発表会後、他学年の発表についての感想交流を実施し子どもたちが互いに認め合う機会をつくった。

- ・学校課題解決に向けた取り組みについて

①学習指導「本気で学ぶとワクワクします。」

学習意欲の向上と学習習慣の形成については、家庭学習ノート（自学ノート）の参考展示等を行い、家庭学習の意欲と充実をめざしている。

心を豊かに育む教育の充実をめざしては、図書館教育の充実と読書活動の推進に力をいれ、保護者の方による読み聞かせ等も再開している。また、栽培活動にも力を入れている。さつまいもの栽培とその収穫したさつまいもを料理したり、3年生は梅干しをつくり保護者の方とおにぎりにして食べたりしている。先日、畑の草むしりをしてきてくれたことがわかった地域の方への感謝の会を開いたりもした。

②生徒指導「みんななかよしニコニコ笑顔」

縦割り班活動や様々な集団活動を通しての絆づくりに力を入れている。挨拶・返事・会釈を頑張っている。朝登校したら職員室に「おはようございます」帰りの際は「さようなら」の押切小の伝統が復活し地域や友だち同士での挨拶がよくなった。

ほめて育てる指導の推進として、「凡事徹底」を校内に掲示し、ささいな事でもよくできたと称賛し、価値つけている。

コロナ禍で中止や自粛を余儀なくしていた学校行事ができるようになり、効果的な特別活動が開催することができるようになり、たくさんの保護者や地域の方々に参加していただけるようになった。それと共に、子どもたちにとって活動の励みとなっている。

③健康指導「健康第一。元気にイキイキ生活」

ぶれない生活習慣作りの推進と啓蒙に努めている。生活リズムの確立やスクリーンタイムの指導と啓蒙に力を入れてきた。アンケートの結果を見ると、起床6時半のめあてでは67%が達成。朝食のバランスでは、摂取率は97%で、課題となったのが緑の野菜が不足していることだった。また、スクリーンタイム2時間。グ

ーム時間30分については、70%の子どもが守られている一方、学年によるバラツキも目立った結果だった。ただ決められたことを守るということだけでなく、なぜ、守ることが大切かを学校保健委員会等で視力の低下とメディアとの付き合い方などの研修を実施した。

コロナ禍で歯磨き指導が自粛傾向になった。また、マスクの着用などの影響で歯肉炎や歯垢などの疾病が増えた。歯磨きに力を入れることを大切にしたり、春の検診(90.2%)秋の検診(93.3%)と虫歯のない児童の割合が増加した。

- ・保護者や地域住民と情報を共有し、充実した連携を図ることについては、コーディネーターの協力を得て、地域ボランティアの募集チラシを全戸に配布した。10名の方々より協力の意志をいただき、早速、ミシン指導を3名の方に協力していただいた。協力していただいたことで、すべての児童が授業中に目標を達成できた。

◇学校運営状況についての質疑 (委員の方々より)

- ・授業参観をし、児童の机の配置がコの字型や様々な形に配置されていたが、公開研究会後にそうなったのか？
→5月に山大の森田先生から授業を見ていただき指導を受けて実施した。一斉指導の体形が常だったので、私たちも半信半疑だったが、子どもたちの明らかな変容を感じているので行っている。グループ学習は4年生から6年生が行っており、グループの配置で授業をしている。席替えも教師が考えながら行っている。
- ・授業中の座席の配置についてはよかった。外国の授業のようで新鮮であり、今時な感じを受けた。
→最初は一人で考えて、考えがまとまったら友だちと意見交換することをやってきたが、今は、コミュニケーションを取りながら考えている。社会に出た時のことを考えると、互いにディスカッションし意見を交わしながら深めているので、これからの学力につながると感じている。
- ・先生たちの受け止め方は？
→一斉で黒板を向いた授業では、分からず伏せたりあきらめたりする児童がいたりしていたが、友だちと話しをして「僕分かった」と声を上げる子が出てきたり、友だちとの話し合いで考えがまとまり発言する子も出てきている。
- ・参観して、昨年度より子どもたちの表情がよくなった。特に、低学年の表情がよかった。先生たちの指導が成果に現れつつあると感じた。
- ・先生が「教える」から、「コーディネートする」に変わることによって苦勞するだろうと感じられる。一年生になると幼稚園の時にはなかった一斉授業の形態に疑問をもつ保護者の方もこれまでいた。押切小での学習形態はこのようにやっていますよというような情報の発信があると保護者の方も安心するだろう。特に、年配の方々のイメージとして、机に向かって姿勢よく授業を受けている時代を経験しているので情報の発信が必要。
- ・公開授業研で他に変わったことは？
→先生たちの授業をまわってみていると、以前より「教える」こと「すぐに答えを認めること」などが少なくなり、子どもたちに考える時間を多くさせ、児童の関わりを大切にしている声かけを感じ取れる。
- ・主体的に、深い学びになってきていることを感じる。子どもたちの関係性も変わってきているように思う。
→曹洞宗のお坊さんたちの読み聞かせの会が訪問した時、お坊さんたちに反応の良さを指摘され嬉しかった。これまで、おとなしく姿勢がよい半面、反応が乏しいのが押切小のイメージだった。子どもたちの心の開放感を感じることができた。それも、学びの成果と言える。
- ・学年交流があることはよいことである。上級生のよい姿を下級生が見て学べる。
- ・ランチルーム給食はまだ行われていないのか？
→2月に全校ランチルーム給食を実施しようと考えている。今は段階的に実施しているところである。4年ぶりなので、以前の全校ランチルーム給食を経験している職員が少なく、縦割りでのどのように行っていくかを含め検討している。
- ・全校のランチルーム給食は、先生たちの負担を増し、帰りが遅くなったりもするのではないか。
→給食中に、先生たちはまるつけや家庭ノートへの返事を書いたりすることがある。全校給食では、給食・食育指導などのメリットも多い。他の地域では、給食指導に地域の方から入ってもらったり、昼休みに地域の方にウォーキングの場に解放している学校もあると聞いた。
- ・スクリーンタイムの取り組みについて、スマートフォンの利用にあたってのネットモラル研修はどうなっているか？
→SNS利用のモラル研修は、様々な機関を活用して行っている。
- ・スクリーンタイムやスマホの利用については、時間の制限より、今後は、リテラシーや内容による判断をどのようにしていくかの方が重要である。時間の制約がないと生活リズムに影響する。
- ・睡眠時間の確保やブルーライトによる視力の低下などの指導から使い方を考えるようにしていきたい。

◇「地域との関わりについて」

- ・ボランティアのチラシはよかった。今後、多くの地域の方に参加していただければよい。
- ・押切小学校に入学する児童が、鶴岡市や私立の幼稚園から入学することが多くなりつつある。その幼稚園に在籍する子どもへの情報提供は配慮が必要になってきている。

- ・学童でのトラブルが、学校への苦情になってしまうことについては配慮が必要。
- 学童までの事故に配慮し、1・2年生19名が押切小学校の施設を利用している。事故等はなくなったが、トラブルはあり、指導にあたる方々との連携を大切にしている。
- ・150周年に向けて、子どもの活躍の場はあるのか？
- 実行委員の方々からは、共に創り上げて行く式典にしたいので子どもの活躍の機会をお願いされている。

